

3. 活動報告

町田市、事業者、市民が 2019 年度に実施した環境に関する代表的な取り組みを紹介し
ます。

3.1. 水と大気の見張り番 ~ 市内河川の水質調査と主要幹線道路の大気質調査 ~

町田市では、市民の健康を保護し、良好な環境を維持するため、水質汚濁や大気汚染など
について日々改善に取り組んでいます。これらの取り組みを正しく評価し、取り組みの改善
に活かすには、河川水質や大気質の状況を継続的に把握することが重要です。

2019 年度の活動内容

河川水質調査を行っています。

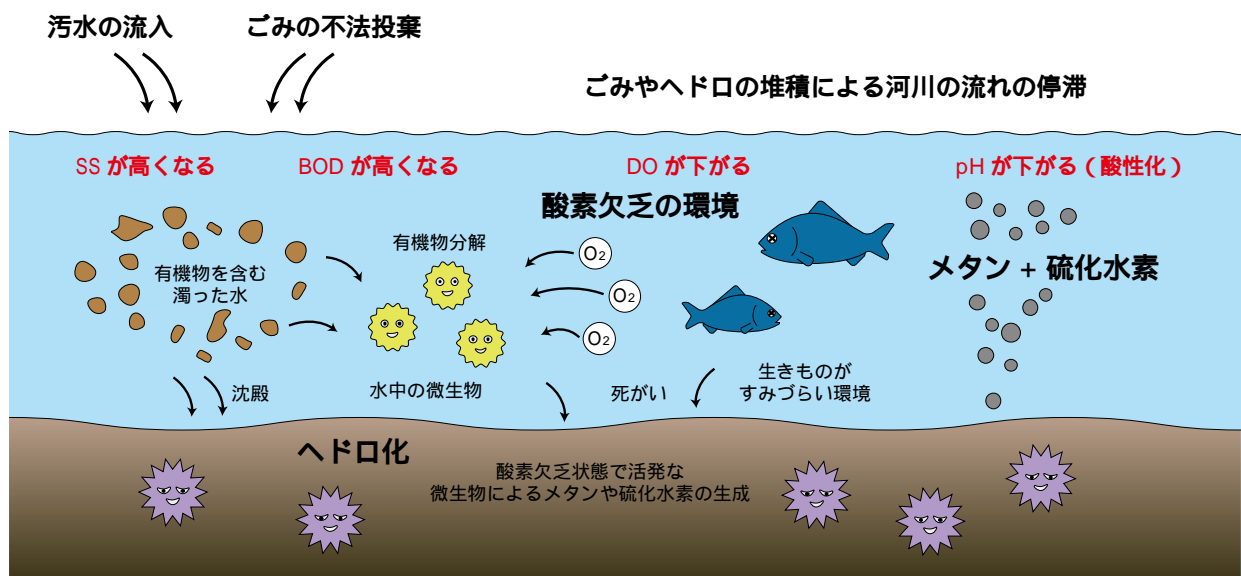
「河川水質調査」は、「水質汚濁防止法」などにより実施が定
められている調査です。高度経済成長を迎えた昭和 30 ~ 40 年
代当時の日本では、産業排水や生活雑排水の野放図な河川流入
による、公害病やヘドロの発生といった河川・沿岸環境の悪化
が社会問題化していました。これらに対応するため、昭和 45
年に「水質汚濁防止法」が制定されました。それ以降、事業者
への排水規制や下水道の整備などにより河川環境は改善されま
した。

鶴見川・恩田川・境川など多くの河川を有する町田市では、
水質を確認するため、現在でも継続して調査を行っています。
2019 年度は合計 28 地点で調査を実施しました。調査項目は
多岐にわたりますが、町田市環境白書で紹介している項目は「生
活環境項目」と呼ばれ、これらの数値が悪いと、河川の透明度
が悪くなり、生きものが棲みづらい川となっている可能性があ
ります。

2019 年度は、すべての河川で pH¹⁰以外の、BOD⁸(P11 参照)、
SS⁹(P11 参照)、DO¹¹で環境基準に適合していました。



昭和 40 年頃の市内の河川
(場所不明:町田市広報課資料)



河川の水質汚濁過程と調査項目との関連イメージ

¹⁰ 水素イオン濃度 (pH): 酸性、アルカリ性を示す指数。pH = 7 中性、pH = 小 酸性、pH = 大 アルカリ性。

¹¹ 溶存酸素 (DO): 水中に溶解している酸素の量のこと。一般に清浄な河川ではほぼ飽和値に達している。



水質調査地点の例と水質調査の様子
 (左:鶴見川(袋橋付近)、中左:恩田川(稲荷坂橋付近)、中右:境川(境橋付近)、右:調査の様子)

大気質調査を行っています。

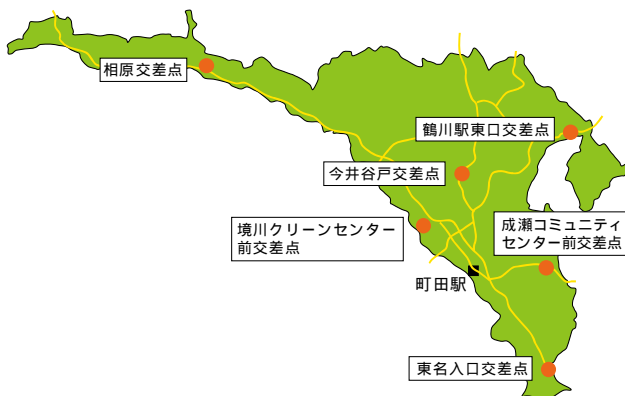
大気環境については、昭和40年代の高度経済成長期に、工場排煙や光化学スモッグによるものと考えられる健康被害の発生で国民的な関心呼びました。特に、モータリゼーションの急激な進展にともなう自動車排出ガスによる大気汚染は、自動車排出ガス規制へとつながりました。その後も、オゾン層の破壊や、酸性雨、地球温暖化、PM2.5など、グローバルな大気汚染問題が顕在化しています。

町田市では、都市に近接しているという地理的要因などから、自動車排出ガスの大気汚染に着目し、代表的な道路交差点など市内6地点で大気質調査を独自で行っています。

2019年度は、二酸化窒素、一酸化炭素などの調査項目について全ての調査地点で環境基準に適合していました。



昭和40年代の市内の渋滞の様子
 (場所不明:町田市広報課資料)



市内の大気質調査地点



今井谷戸交差点 調査地点の様子

2020年度以降の展開

法令の改正や社会情勢に合わせて調査内容を精査しながら、引き続き河川や大気環境の変化をチェックしていきます。

担当者からのメッセージ

道路排水溝は直接河川に繋がっています。洗剤が含まれた洗車後の排水や、日曜大工で余った塗料などを不用意に道路排水溝に流してしまうと、自分でも気づかないうちに河川を汚してしまうことになってしまいます。日頃から十分注意を払いましょう。

活動への問い合わせ

「河川水質調査」「大気質調査」に関するお問い合わせは、こちらまでお願いします。

町田市 環境資源部 環境保全課 TEL: 042-724-2711

3.2. 低公害車の導入と自転車利用の推進！

低公害車とは、大気汚染物質の排出が少ない、または全く排出しない燃費性能に優れた自動車のことです。電気自動車、天然ガス自動車、ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車、水素自動車などがあります。

町田市役所では、町田市第4次環境配慮行動計画に基づき、温室効果ガスを削減するために、低公害車の導入や職員の自転車利用を促進しています。

2019年度の活動内容

低公害車の導入

町田市では「町田市グリーン購入ガイドライン」に基づいて、公用車183台のうち、計30台を燃費性能の良い車両に入れ替えました（2019年度末時点）。

低公害車としては、乗用車でハイブリッド自動車、電気自動車、燃料電池自動車を導入しています。市役所の敷地内には電気自動車用の充電装置が設置してあり、来庁者の皆様にもお使いいただけるようにしています。燃料電池自動車は、P16の「水素エネルギーを学ぼう！」でもご紹介しているように、児童や市民の環境学習の教材としても活用しています。天然ガス自動車は、主にごみ収集車で使用しています。



市庁舎の電気自動車用普通充電器



燃料電池自動車

車内に貯蔵された水素と空気中の酸素の化学反応によって発生する電気でモーターを回転させて走る自動車



ハイブリッド自動車

複数の動力（例 電気モーターとガソリンエンジン）を組み合わせ、それぞれの利点を活かして駆動することにより、低公害化や省エネルギー化を目指した自動車



電気自動車

バッテリー（蓄電池）に蓄えた電気でモーターを回転させて走る自動車



天然ガス自動車

（スケルトンごみ収集車 みえるくん）
ガソリンなどより二酸化炭素の排出量の少ない天然ガスを燃料とした内燃機関（エンジン）によって走行する自動車

職務中のエコドライブや自転車利用の促進

町田市では、職員を対象とした安全運転講習会を開催しています（2019年度、4回開催、計39名参加）。講習会や教材を通じて、職員には、近距離移動の際の自転車利用や徒歩の推奨、公用車運転の際のエコドライブの奨励に努めています。



安全運転講習会の様子

1 ふんわりアクセル「eスタート」

「やさしい発進を心がけましょう」

2 加減速の少ない運転

「車間距離は余裕をもって、交通状況に応じた安全な定速走行に努めましょう」

3 早めのアクセルオフ

「エンジンブレーキを積極的に使いましょう」

4 エアコンの使用を控えめに

「車内を冷やしすぎないようにしましょう」

5 アイドリングストップ

「無用なアイドリングをやめましょう」

6 暖機運転は適切に

「エンジンをかけたら適切な暖機で、出発しましょう」

7 道路交通情報の活用

「出かける前に計画・準備をして、渋滞や道路障害等の情報をチェックしましょう」

8 タイヤの空気をこまめにチェック

「タイヤの空気圧を適正に保つなど、確実な点検・整備を実施しましょう」

9 不要な荷物は積まずに走行

「不要な荷物は積まないようにしましょう」

10 駐車場所に注意

「違法駐車は、渋滞の原因にもなりますので、やめましょう」

エコドライブのすすめ（出典：町田市職員安全運転ハンドブック）

これらの取り組みの結果、市有財産活用課が管理する公用車の2019年度の燃料使用量は、前年度比でガソリン1.1%、軽油8.4%、天然ガス5.9%となり、温室効果ガスの削減につながりました。



職員の近距離移動で活躍する電動アシスト付自転車

2020年度以降の展開

2020年度も112台の公用車を、燃費性能の良い車両に入れ替える予定です。

また、近距離の移動時については、荷物の運搬や雨天時など車両使用の必要性がある場合を除き、できるかぎり徒歩や自転車での移動を、今後も市職員に促していきます。

担当者からのメッセージ

市職員が率先して行動することで、市民や事業者の皆様への環境配慮行動のモデルを示せたらと考えています。そのためにも、今後も職員に対し、安全運転はもちろんのこと、エコドライブや自転車利用促進を啓発してまいります。

活動への問い合わせ

「市役所における低公害車の導入、エコドライブ、自転車利用促進の取り組み」に関するお問い合わせは、こちらまでお願いします。

町田市 財務部 市有財産活用課 TEL：042-724-2112

3.3. 水素エネルギーを学ぼう！

今後、温室効果ガスの削減を推進する上で、「水素エネルギー」の導入は、その原動力の一つとして大いに期待されています。

町田市では、水素社会実現へ向けて水素ステーション誘致などを行うほか、市民にとってまだまだ身近ではない水素エネルギーについて、イベントや講演会、出前授業などを通して、理解を深めていただける機会を提供しています。



水素社会の実現イメージ (出典: 環境省パンフレット)

2019年度の活動内容

小学校への出前授業

燃料電池自動車を教材にして「水素エネルギー」を知ってもらう出前授業を4つの小学校で行いました。授業は社会科の授業の一環として行ない、地球温暖化や水素エネルギーについての授業、水素エネルギーを実際に体感してもらうための燃料電池自動車試乗体験、燃料電池自動車から給電をする電気機器の利用体験といったカリキュラムで実施しました。



まず水素エネルギーを勉強しよう



燃料電池自動車を体験しよう

参加者の声

- ・燃料電池自動車が身近に感じられ、環境に興味を持ちました。
- ・排気ガスのおい기가まったくなく、水素と酸素を反応させて電気を作るときに、水が出るのがすごいと思いました。



水素エネルギーを使ってみよう

「水素エネルギーを学ぼう！」環境学習会の開催

8月には、小中学生を対象に「水素エネルギーを学ぼう！」と題した環境学習会を市庁舎で開催しました。参加者には、キットを用いて簡単な燃料電池を作製していただき、「水素エネルギー」を実際に体験していただきました。



環境学習会の様子

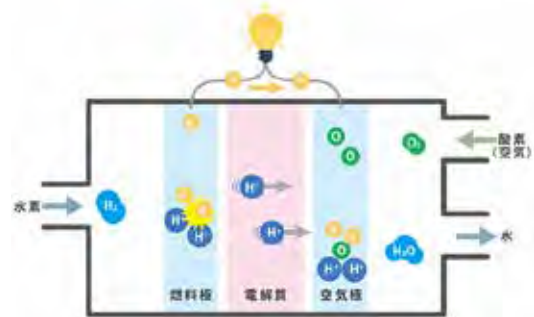


作製した燃料電池

参加者の声



- ・水素はあぶないイメージがあるけど、未来のためには必要なんだなあと思った。
- ・あんなに少ない水素で風車が回ってビックリしました。



燃料電池のしくみ

(出典：資源エネルギー庁ホームページより)

燃料電池自動車の乗車体験・展示会

10月に市庁舎で開催した「町田エコフェスタ2019」では、職員の運転による燃料電池自動車の乗車体験会を行いました。乗車体験ではエコドライブの解説を行いながら、実際の乗り心地を感じていただきました。実際に試乗するのは初めてだったという声が多く聞かれました。

この他にも、子どもセンターでのイベントなどで5回開催し、多くの方に燃料電池自動車を試乗していただきました。



燃料電池自動車の乗車体験・展示会の様子

2020年度以降の展開

引き続き、次世代を担う子どもたちを中心に、水素エネルギーをはじめとした最先端の環境の取り組みについての学習機会を提供してまいります。

担当者からのメッセージ

水素エネルギーを利用した燃料電池自動車は、身近に水素ステーションが少ないことなどから、あまり普及していないのが現状です。町田市では、水素ステーションの誘致をはじめ、皆様が将来にわたって環境配慮行動をしやすいまちづくりを進めていきたいと考えています。

活動への問い合わせ

「地球温暖化に関する学習機会の提供」へのお問い合わせは、こちらまでお願いします。

町田市 環境資源部 環境・自然共生課 TEL：042-724-4391

3.4. まちだエコ宣言登録事業者の取り組み

「まちだエコ宣言」は、環境に配慮した活動を行うことを宣言した市内事業者の取り組みを、市が広く市民の皆さんに紹介し、さらなる活動の広がりを応援していく制度です。2020年9月現在で89事業者が登録をしています。今回はこの中から、原町田の「東京電力パワーグリッド 町田事務所」と同じく原町田の「町田マルイ」の取り組みを紹介します。

(1) 東京電力パワーグリッド 町田事務所

東京電力パワーグリッド 町田事務所は、原町田に50年以上事務所をかまえている、地域でもなじみ深い事業者です。東京電力パワーグリッドになり、電気工事や電力設備のメンテナンスなどを行う部門が中心の事務所となりましたが、今も地域とのつながりを大切に環境配慮に取り組んでおられました。

エコ宣言登録事業者としての取り組み実績

- 緑のカーテンの実施
- クールビズ活動による節電
- エコキャップ・ベルマーク運動への参加
- 紙ごみの削減（デジタル化・裏面活用）

取り組みの工夫

事業所にお伺いして、最初に目に飛び込んでくるのがエントランスにそびえ立つ「緑のカーテン」。
「去年、私たちが町田に配属されたときに、最初に取り組んだのが緑のカーテンでした。」
と、町田事務所の青木さんと小林さん。
「今年は、現場の社員も手伝ってくれて、みんなで楽しく試行錯誤で育てています。近所の子どもたちもゴーヤの花を楽しみにしてくれています。」

ごみについてお尋ねすると、事務所からのごみを分別することはもちろん、産業廃棄物として処理される現場ごみも分別を始められたのだそう。ヒントは、町田市の3Rの取り組みだったとか。
「現場ごみを分別するようになって、現場の職員の意識も高まり、ごみの量は昨年よりも減っているんですよ。」

新たな取り組みでも、職員の方々が自分のこととして実践している姿が目につかびます。エコキャップやベルマーク運動の参加も、社員の方々が自発的に始められたそうです。

地域とのかかわりも積極的で、去年の「町田エコフェスタ」にも参加し、東京電力のシンボルでもある「尾瀬」の風景を再現したブースは、来訪した市民の方々にも好評だったそうです。

町田事務所の取り組みの強みは、社員の自発的な行動力。長い時間をかけて築き上げた、東京電力の社内文化の力は「さすが」だと感じました。



小林さん(左)と青木さん(右)



災害に備えたEV車と外部給電装置



ごみの分別もわかりやすく



町田エコフェスタで「尾瀬」を再現！



エントランスに立ち上がる緑のカーテン

(2) 町田マルイ

町田マルイは、1980年から40年間、町田駅コンコースの賑わいの一員として市内外の方々に親しまれている事業者さんです。丸井グループは環境配慮の歴史が長い企業ですが、今回はさらに新しい挑戦についてお話しいただきました。

エコ宣言登録事業者としての取り組み実績

- 「町田エコフェスタ」に参加
- 「さんあーる広場 in シバヒロ」に参加
- 資源ごみを徹底して分別し、行政のリサイクル活動に参加

取り組みの工夫

丸井グループでは、「環境配慮、社会的課題解決、企業統治」と「ビジネス」が一体となった未来志向の「共創サステナビリティ経営」を進めています。この中で、「事業の中で特に環境負荷の高い、電力使用について、優先的に取り組んでいます。」と、丸井グループ本社の永井さん。

全店舗の電力を再生可能エネルギー化することを目指しており、「2020年度から町田マルイでは100%再生可能エネルギー由来の電力を調達しています。」とのこと。

また、強みであるクレジットカードの決済システムを活かして、自然エネルギーをお客様の生活の中に気軽に取り込んでいただけるサービスも9月にスタート。「お客様と一緒に社会課題の解決を進めていきたいんです。」

店舗の取り組みについてお話しいただいたのは、町田マルイのショップ長である戸川さん。

「お客様とともに「マイバッグをご利用いただく文化」を創り出していければと考えています。」

今までのプラスチック製ショッピングバッグを、7月には、森林認証を受けた有料の紙製バッグに切り替えたのもその流れ。丸井ブランドの婦人靴の箱を再利用しやすい無地のクラフト紙に変更したことも、資源利用の配慮がお客様の生活まで行き届くマルイならではの取り組みだと感じました。

「町田エコフェスタ」「さんあーる広場」といった地域との連携にも積極的で、「将来的に地域のエコ宣言事業者さんとも協力していければ！」と、その目線は、常に新しい「共創」へのチャレンジに向かっていることが印象的でした。

活動への問い合わせ

「まちだエコ宣言」に関するお問い合わせは、こちらまでお願いします。

町田市 環境資源部 環境・自然共生課 TEL: 042-724-4391



ショップ長の戸川さん



さんあーる広場に参加



町田マルイの電力はすべて再生エネで！



自然エネルギーで暮らす電力プラン。

みんなの電力エポスプラン

エコな生活のための新サービス



環境配慮した新しいショッピングバッグ



商品ラベルもはがしやすいものに配慮

3.5. 市民の取り組み

市民による環境への取り組みの中から、緑のカーテン事業と皆さんの環境の取り組みを応援する「ハスのん」を紹介します。

(1) 緑のカーテン事業

節電意識を高め、過度にエアコンに頼らない快適な夏を過ごすため、市民による緑のカーテンづくりが毎年実施されています。

ゴーヤやアサガオの苗の配布

緑のカーテンを市内に広めるために、ゴーヤやアサガオの苗を配布しています。

2019年度は、市民への配布 4,057 苗(1,020 世帯)をはじめとして、商店会、町内会・自治会、民間団体、公共施設などを含め 9,186 苗を配布しました。

配布した苗が緑のカーテンになった時の二酸化炭素(CO₂)削減効果は、およそ 588 t になります(1 苗で面積 4 m²の緑のカーテンができ、0.064 t の CO₂ が削減できると想定)。また、公共施設や小中学校で育てたゴーヤは、学校給食で児童にも提供されています。



町田市内の緑のカーテンの事例 (左:鶴間幼稚園、中~右:市民ホール)

・ネット



網目は 10cm がおすすめです

・支柱ほか



・培養土

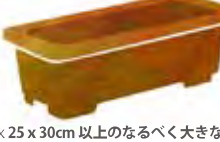


初心者は野菜用培養土に 1 割程度の腐葉土を加えて下さい。

・鉢底石 (または鉢底ネット)



・プランター



75 x 25 x 30cm 以上のなるべく大きなサイズ

病虫害対策

病虫害対策の基本は、丁寧な手入れです。被害が出た部分や雑草はもちろん、古い葉もこまめに取り除いて風通しをよくします。それだけでは防ぎきれない場合、近隣に配慮し市販の防虫用資材や殺菌剤を使いましょう。症状に合わせてうまく活用し、なるべく使わないように育てましょう。



・たね (または苗)



初めての方は作りやすいゴーヤがおおすすめです。

・肥料



液体・固形タイプもあります

・ジョウロ/スコップなど



緑のカーテン制作に必要な道具 (出典:緑のカーテンのつくりかた:NPO 法人 緑のカーテン応援団)

活動への問い合わせ

「緑のカーテン事業」に関するお問い合わせは、こちらまでお願いします。

町田市 環境資源部 環境・自然共生課 TEL: 042-724-4391

(2) 皆さんの環境の取り組みを応援する「ハスのん」

「ハスのん」のことを皆さんご存じですか？町田市イベントや、広報紙、ホームページなどで、一度くらいはご覧になった方もいらっしゃるのではないかと思います。

「ハスのん」は、「第二次町田市環境マスタープラン」の推進役として、市と協定を結んでいる大学の学生さんから応募された候補作品の中から、2012年11月に市民投票により選ばれた町田市のエコキャラクターなのです。

皆さんに「ハスのん」についてもっと知っていただきたいので詳しくご紹介しましょう。

「ハスのん」のプロフィール

名 前：ハスのん（ハスの花の妖精）
性 別：不明
誕生日：11月9日（妖精なので歳はとらない）
身 長：ちっちゃくなったり、おっきくなったり
体 重：かるくなったり、おもくなったり
出身地：薬師池
性 格：おっとり
特 徴：しゃべると語尾が『のん』になる
光合成をし、空気を浄化させる
趣 味：旅行、自然巡り、お散歩
特 技：周りの人や動植物を明るく、楽しい気分にする
させることができる



将来の夢は“町田をみどりと笑い声でいっぱいにする”

「ハスのん」はどんなことをしているの

「ハスのん」は、市民の皆さんに環境問題を身近に感じてもらえるよう、様々なイベントや啓発学習の場に登場しています。

主な活動としては、6月の「環境月間イベント」や、10月の「町田エコフェスタ」に参加して、皆さんとふれあっています。この他にも、市内外の環境に関するイベントを中心に、さまざまな広報活動を行っています。

また、「ハスのん」はInstagramやTwitterで、町田市の環境に関する情報や、イベント参加の様子、市民の環境活動の紹介などを投稿しています。ぜひ、右のQRコードから訪ねてください。

「ハスのん」は市民の環境活動を応援しています

「ハスのん」をきっかけに市民の皆さんに環境の取り組みや環境問題を身近に感じていただけるよう、第二次町田市環境マスタープランで定めた環境の取り組みを推進していく活動であれば、町田市民に限らず「ハスのん」をイベントなどで使用することができます。

「ハスのん」の使用をご検討の方は、環境資源部環境政策課（TEL：042-724-4386）まで、電話等でご相談ください。



緑のカーテンのイベントで！



Twitter



Instagram



みんなともっと仲良くなりたいのん！